

こやまだやくしどうずし
小山田薬師堂厨子

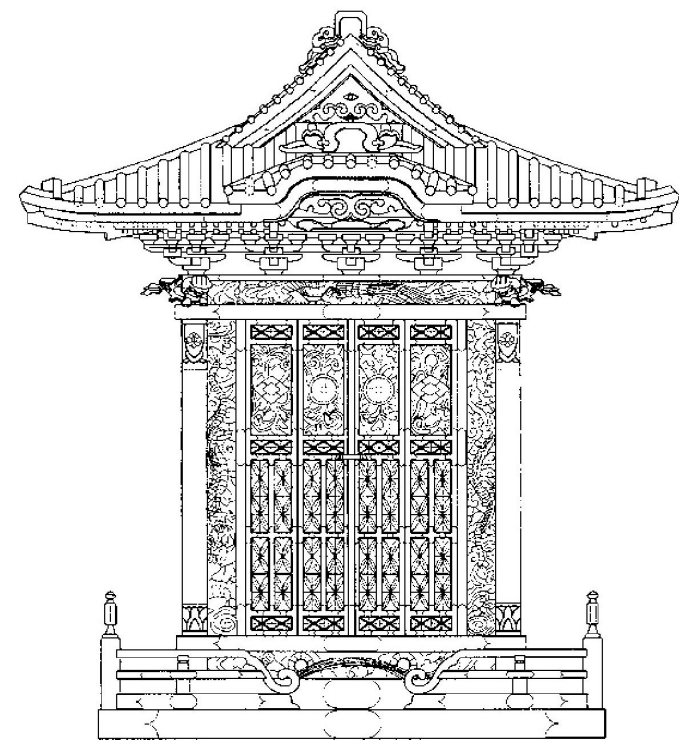
- ◇ 指定日 昭和55年5月29日
- ◇ 所在地 小山田
- ◇ 所有者 小山田神社

厨子は、寺院などで仏像や経巻を安置する箱型の仏具で、かつては小山田薬師堂本尊の懸仏が納められていたといわれています。

木造漆塗りで、屋根は入母屋造^{いりおもやづくり}で正面に唐破風^{からはふ}をつけ瓦風に仕上げています。大棟に鬼板^{おおむね}、唐破風^{おにいた}の下に虹梁^{こうりょう}と鶴の彫刻が配置さ

れ、屋根を斗拱^{ときょう}で支えています。木鼻に象と獅子の彫刻、開き扉には華麗な模様と龍の彫刻を施しています。柱も金と彩色で装飾され、全体的に豪華絢爛に仕上げられています。

軒^{たるき}の垂木が欠損しているのは、これを煎じて飲めばお薬師様のご利益で病気が治ると信じられていたからだといわれています。



立面図